

第 18 回（平成 28 年度 第 2 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

■日 時 平成 28 年 7 月 19 日（火）14：00～16：00

■場 所 ホテルアクア黒部 ロイヤルシンフォニー

■出席者 協議会委員 21 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成計画を作成しようとする市町村	黒部市長	堀内 康男	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社代表取締役副社長	日吉 敏幸	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター 入善土木事務所長	米田 吉博	所長代理 浜田 守	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会 地域公共交通の利用者 市民ボランティア	黒部警察署長	津田 良夫	本人出席	
		黒部市自治振興会連絡協議会	能登 政雄	本人出席	
		黒部市民生委員児童委員協議会会長	沖村 武志	副会長 田村 豊嗣	
		特定非営利活動法人 黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	稻澤 孝雄	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会会長	牧野 和子	本人出席	
		公募委員	中谷 靖子	本人出席	
		東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席	
		北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	高橋 智彦	欠席	
その他の当該市町村が必要と認める者		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	工藤 隆志	本人出席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	山岸 忠政	本人出席	
		富山県知事政策局総合交通政策室課長	助野 吉昭	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	座長
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	事務局長 坂井 英次	
		YKK株式会社特別顧問	佐々 裕成	本人出席	
		富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	中松 清孝	本人出席	
		宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席	

■事務局：黒部市総務企画部企画政策課

寺嶋総務企画部長、長田企画政策課長、藤田班長、下坂主査、村山主任

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 経過報告
- 4 議案

議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について
- 5 協議事項

協議第 2 号 石田三日市線のルート変更及びダイヤ改正について
協議第 3 号 新幹線市街地線の定額運賃制社会実験等について
協議第 4 号 新幹線生地線の新運賃制度の導入について
- 6 報告事項

報告第 5 号 交通まちづくり創生事業（地方創生交付金事業）について
報告第 6 号 黒部宇奈月温泉駅乗降調査結果について
- 7 その他
- 8 閉会

挨拶（堀内市長）

- 市長から挨拶を行った。

経過報告

- 事務局から、資料に基づき経過報告を行った。

○進行：長田課長

ただいまの経過報告について、ご質問があればお願い致します。

特になし

それでは、議事に移らせていただきます。

座長挨拶（川端座長）

- 座長から挨拶を行った。

議案

（1）黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について

- 事務局から、資料に基づき、黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について説明を行った。

○川端座長

議案第 3 号について、異議が無いようなので承認させて頂いてよろしいか。

拍手にて承認

それでは議案第 3 号を承認する。ありがとうございました。

協議事項

(1) 石田三日市線のルート変更及びダイヤ改正について

- 事務局より資料に基づき、石田三日市線のルート変更及びダイヤ改正について報告を行った。

○川端座長

協議事項第 2 号について、異議が無いようなので承認させて頂いてよろしいか。

拍手にて承認

それでは協議事項第 2 号を承認する。ありがとうございました。

(2) 新幹線市街地線の定額運賃制社会実験等について

- 事務局より資料に基づき、新幹線市街地線の定額運賃制社会実験等について報告を行った。

○川端座長

社会実験の期間は決まっているか。

○事務局

9 月から 11 月の 3 ヶ月を予定している。

○川端座長

他、特に異議が無いようなので、承認される方は拍手にて承認お願い致します。

拍手にて承認

それでは協議事項第 3 号を承認する。ありがとうございました。

(3) 新幹線生地線の新運賃制度の導入について

- 事務局より、資料に基づき、新幹線生地線の新運賃制度の導入について報告を行った。一部、新幹線生地線の運行状況について口頭にて説明があった。

●事務局

新幹線生地線は、YKK グループにより平成 28 年 6 月 6 日より運行を開始している。開始から 1 か月ほど経ち、6 月末現在の利用状況は、1 日当たり 46 人と聞いている。内訳としては、平日 58.7 人、休日 5.8 人である。

○川端座長

新幹線生地線は、平日と休日で利用者に差があるようである。

体に不自由がある方への割引対応と、路線の 1 日フリー切符を導入するという説明であるが、新幹線生地線の新運賃導入に関して何かご意見があれば伺いたい。

○原田委員

平日平均60人の利用者は、出張によるものか。

○佐々委員

東京からの出張者が主に利用していると思うが、一般にも利用されていると思う。できれば、出張利用者だけでなく、YKKセンターパーク利用者へ休日にも利用してもらいたいところであるが、まだまだ周知が足りないようである。

○川端座長

他、特に異議が無いようなので、承認される方は拍手にて承認お願いいたします。

拍手にて承認

それでは協議事項第4号を承認する。ありがとうございました。

報告事項

(1) 交通まちづくり創生事業（地方創生交付金事業）について

●事務局より、資料に基づき、交通まちづくり創生事業（地方創生加速化交付金）の報告を行った。

○中松委員

小さな公共交通の実証実験について、相乗りとはライドシェアのことであると思う。ライドシェアは、近年問題となっている交通手段である。

YKKの従業員同士、同じ時間帯に同じ工場に行くので相乗りしようというのは構わないと思う。一方、近隣住民同士の相乗りに関しては、配車の責任は誰にあるのか、事件、事故があったときの責任は誰がとるのか、また、料金を払うか、払わないかで問題がある。

俗にいうライドシェアは、ガソリン代や高速利用料金は折半になるという考え方である。もし、黒部市でこの事業を行う場合、間違いなく白タク行為に当たる。全国的にも問題になっているものである。

ライドシェアに関して、責任の所在、運行方法についてはっきり記載しているものがない。今回の事業は私の立場的から言えば、万が一事故が起きたときのことを考えると適切ではないと思う。また、ライドシェアは公共交通ではないと思う。

配車は、ボランティアの人をお願いすると記載があるが、ボランティアの人が、必要とされている場所の近くに必ずいるとは限らない。乗合タクシーを運行した方が、信頼、安心ということが市民の皆さんに求められているのではないかと思う。

もし、事業がライドシェアに当てはまるのであれば、深く考える必要がある。本日は委員として、運輸支局よりご出席いただいているので、必要であれば道路交通法について詳しくご説明いただければと思う。私の立場としては、ライドシェアは公共交通としては、好ましくないのではないか、という意見として発言させていただく。

○事務局

ライドシェアへの回答になるかはわからないが、今回の実証実験では料金は発生しないの

で、白タク行為には当たらない。

事故等に関する責任に関しては、必要な保険に加入する予定である。

また、これは実験であるので、本市においてどの程度利用ニーズがあるのかを把握することを目的としている。実験実施にあたり具体的な問題、課題、心配点等の洗出しを行うことに加え、結果を踏まえて、この地域にふさわしい交通手段であるのかを検討することが必要であると考えている。

○原田委員

資料に岩手県陸前高田の事例がある。これは、羽藤先生が実際に行っているものであり、黒部市においてもこの実績を踏まえて実施する予定である。

ライドシェアの問題でよく取り上げられているUberは、日本ではタクシー事業者と競合することもあるし、世界では様々な問題になっている事例もある。

一方タクシー、相乗り、Uberの様なものを含めて1つの公共交通のグループとし、ワンセットで月々いくらかを支払うような、新しいモビリティサービスの考え方があり、フィンランドで実際に8~9月頃から始まる。少し人口密度が低いところで、自動車がなくても、公共交通だけで暮らしていけるような、街全体で動ける様になるという動きがある。

良い面も悪い面もあると思うが、社会実験として、新しいシステムが入ってきたときに市民の皆さんにどれだけ利用していただけるかを確認し、本格的な実現についても実験を通じて整理する必要がある。

事業者の皆さんには、そのように理解していただきたい。

○中松委員

相乗りの範囲、対象地区を明確にしたほうがいいのではないかと思う。

カーシェアを黒部市全域で行う場合、黒部市からタクシー、バス、電車がいらなくなる、公共交通自体が衰退していくのではないか、と感じている。本来であれば、中谷委員が言わるよう、タクシー事業者が運行した方が、市内の交通事業者が生き延びていけるのではないかと思う。

無料の交通手段を運行してしまうと、市民は必ず無料の方を利用してしまう。資料では、「目的、目的地によってタクシー、バスの交通手段を選択できる」と記載があるが、無料の手段がある場合、必ず皆無料の手段を利用すると思う。

黒部市としては、運行範囲を明確にしておかないと、タクシーの数が減り、バスの運行本数が減る等、市内の公共交通が衰退していくのではないか、と危惧している。

上記を視野に入れ、しっかりと計画を立ててほしい。

○事務局

カーシェアの実験範囲は、市内全域は対象としていない。市街地から離れた公共交通の不便な地域をピックアップし、住民の皆さんに実験をお願いする予定である。

また、今回の実験対象者は、あくまでも自家用車利用者であり、現在のタクシー利用者、公共交通利用者の転換は考えていない。

とはいいうものの、実際に実験し、市民の動きをみていく必要があるので、心配や懸念については、十分に検討した上で実証実験を実施していきたいと考えている。

○事務局

もう 1 点補足させていただく。今ほどご指摘いただいた通り、本日ご出席いただいている路線バス事業者様、タクシー事業者様との協議・調整は、今後作業部会で十分に議論をさせていただいた後、社会実験を実施させていただきたいと考えている。

また、公共交通利用者の奪い合い、公共交通衰退へのご指摘があったが、我々が今回の事業で目指していることは、公共交通利用者そのものを増やすということである。客の奪い合いではなく、マイカーからの転換により利用する人そのものを増やしていきたい、と考えている。

以上を踏まえ、各事業者等と協議、調整をさせていただきたい。

○中谷委員

この事業は大変いいなと思っている。ただ、タクシーを利用したものであれば大変ありがたいと思う。高齢者の立場としては、今回の話は、嬉しいと心配の両方の思いである。

ぜひ推進させていただきたいと思う。

○川端座長

サンプリングの募集について、被験者の選出基準等はあるのか。被験者の選定によって結果がかなり異なると考える。現在、公共交通を利用している方と自動車を利用している方では、動きに違いが現れるのではないか。

被験者のバランスやピックアップ方法はあるのか。

○事務局

300 人の有効なデータを把握するため、450 人の被験者を依頼する予定である。

具体的には市役所、YKK の職員、その家族に被験者をお願いし、通勤や通院、買い物、子どもの送迎等の様々なデータを取りたいと考えている。

実証実験前と実証実験中の変化を見ることが一つの目的である。また、実証実験とは関わらない部分についても、移動に関するビックデータを取りたいという部分で参加をお願いしたいと考えている。

○佐々委員

先日より、YKK から事務局へ相談を申し上げ、現在、東京から 230 人の社員が黒部へ移住している。また、海外各地からも黒部へ人を呼び込んでいる。

しかしながら、市内の移動手段はマイカー中心なので、移住者のための移動手段を確保したいと考えている。理想としては、バス、タクシーに乗って移動してもらいたいところであるが、なかなか浸透しない。行政に調整をお願いし、東京大学の先生方に相談を申し上げて、YKK としても努力していきたいと考えている。

世界、東京等各地から多くの人が住み始めている。移住者の利便性確保により、地域の利便性が高まればいいと考えている。

○川端座長

では、次の報告に移らせていただく。

(2) 黒部宇奈月温泉駅乗降調査結果について

- 事務局より、資料に基づき、黒部宇奈月温泉駅乗降調査結果の報告を行った。

○川端座長

昨年は、新幹線開業年であった。冒頭の会長の話にもあったように、今現在の利用者数が新幹線利用者のベースになると想え、人数をどう増やしていくかが課題であると考える。

また、新幹線開業くろべ市民会議を行い、新幹線開業に向けてのイベントを行ってきた。それを引き継ぐような形で、新しく、新幹線を利活用する団体、組織を作る準備をしているところである。ぜひ、新幹線利用者を伸ばしていく活動をしていきたいと考えている。

○佐々委員

事務局の方で、昨年華々しくデビューした金沢駅の状況は把握しているか。また、黒部宇奈月温泉駅と同様、富山駅、金沢駅等の利用状況はわかるか。

○事務局

各駅の利用状況は、JRからの発表はない。富山、金沢駅の利用状況は事務局では把握していない状況である。

○佐々委員

なんとか把握したいところである。

○川端座長

JRは乗降客数を発表しないため、今回資料に掲載している乗降客数は、事務局で調査したものである。

昨年と比較すると、金沢、富山駅では、黒部宇奈月温泉駅同様に減少していると感じている。ツアーの本数等は減少傾向にあり、観光面でも落ちてきているのではないかと感じる。

一方、以前JR西日本と話した際、他の新幹線よりも利用者人数の落ちるスピードは遅いという話があった。また、上野駅では東北、北陸のポスターが掲載されている。今後の取り組み次第では、観光客を惹きつける可能性はあるのではないかと考える。

○堀内会長

JR西日本HPにて12%減という発表があったが。

○事務局

JRが糸魚川駅ー上越妙高間の昨年度との利用状況比較の報告を行い、4月、5月、6月の乗客数は、昨年の88%としている。

月別では、4月で93%、5月で86%、6月で87%という状況である。

○川端座長

宇奈月温泉の宿泊客数、黒部峡谷の乗降客数を見ていても、5月後半から6月、7月にかけてかなり減ってきていていると聞いている。

それでは、報告事項は以上で終了とさせていただく。

(3) その他

○川端座長

前回の協議会で、富山地方鉄道宇奈月温泉駅のバリアフリー化について議論を行った。エレベーター設置の要件として一日 3,000 人の利用者が必要であり、現在の状況では非常に厳しいという話であった。今年度制度が変わり、観光面も考慮されるようになったと聞いており、少し期待できる状況になったのではないかと思う。

本日出席しておられる北陸信越運輸局工藤課長より、制度や全体についてお話をいただく。

○工藤委員

宇奈月温泉駅のエレベーター化に関しては、昨年より富山地方鉄道及び黒部市から相談を受けていた。今回は、経過報告と新しい制度の説明をさせていただく。前回の協議会で報告した内容とリンクする内容になる。

昨年度まで「地域公共交通確保維持改善事業費」という補助事業でバリアフリー化の整備補助を行っていた。この補助金は、一日の利用者数が一定数を超えてることが一つ主要な補助要件の指標だったため、適用には非常に難しい側面があった。

背景としては、「移動円滑化の促進に関する基本方針」がある。平成 23 年には、「平成 32 年までに一日利用者数が 3,000 人以上の駅について優先してエレベーター化を整備する」という政府方針が出されている。

適用に関しては、「地域の要望・支援の下、駅施設の構造等の制約条件を踏まえ可能な限りの整備を行う。その他、地域の実情に鑑み、利用者のみならず、高齢者・障がい者等の利用実態を踏まえて、可能な限りバリアフリー化を実施する」という方針も併記されている。

ただ、実態としては対象となる駅が多数あるため、どうしても 3,000 人という枠組みの中で整備が進んできた経緯がある。

平成 26 年度末における全国の整備状況は、JR・大手私鉄区分では約 97% が整備され、301 駅が残っている状況である。同様にその他地域鉄道では、平成 26 年度末で 92% が整備され、270 駅が残っている。つまり、32 年までには全国で 600 近い駅が残ると予測される。

北陸信越運輸局管内においても、26 年度末で 71 駅中 55 駅が整備済みであり、10 数駅残っている。場所により一概に言えないが、1 年に 2 箇所から 3 箇所が解消されているというのが最近の傾向を感じている。宇奈月温泉駅が整備を望んでいる平成 29 年度までには、10 前後の駅が残るという予想である。

ただ、管内において整備が残っている駅は、整備が非常に難しく、ハードルが高い駅である状況であるため、数だけでは判断できないとも考えている。

一方、28 年度以降は、新たな補助金に対応する必要が出てきた。駅施設のバリアフリー化におけるエレベーター整備に関しては、「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費」という観光庁の補助金を使って整備することに変わった。また、日本再興戦略の改定により、地方の主要観光地のバリアフリー化に取組む方針が示された。

これらにより、残っている 600 程度の駅に関しては、従前の「移動円滑化の促進に関する基本方針」に基づく整備と、観光に基づく整備の両方で進んでいくという状況に今年度から変わってきている。

宇奈月温泉駅が来年度採択に至るかは、現時点では難しい面はあるかもしれないが、現在の要望に関しては、本省担当者へ伝えている状況である。

平成 28 年度の執行状況に関しては、実態がこれから報告されてくる。採択に向けての取組

みは、報告を踏まえ検討を進める必要がある。

○中田委員

今年の宇奈月温泉駅、新黒部駅の利用者数は、新幹線開業後から約2割減少、アルペントルートは、ほぼ前年並みで推移している。

観光客数の面では、立山駅は、訪日外国人客数が伸びているが、国内観光客が若干下がつていてほぼ前年並みである。一方、宇奈月温泉駅の外国人観光客数は、チケット販売による訪日、国内観光客の区分けができず明確な数字がわからないが、全体的に減少傾向である。

最近の感覚としては、団体客よりも個人客が非常に増加していると感じている。

宇奈月温泉駅の駅舎は、昭和57年に建てられている。エレベーター設置に関しては、設置スペースの課題があったが、基本設計においてクリアできる見通しとあることが、以前の協議会で取り上げられた話であったと思う。

補助金は観光に関するもので申請するが、企業としては、地域の方々に利用していただきたいと考えている。宇奈月温泉駅周辺は高齢化が進み、駅の階段が非常に長いために、苦情をいただいている状況である。

当社で1日利用客3,000人をクリアできるのは電鉄富山駅だけであり、宇奈月温泉駅同様、立山駅に関してもまだバリアフリー化を行っていない。今回は、駅の整備を進めていくきっかけとなればよいと思っているので、ぜひ相談させていただきたい。

1点意見を言わせていただくと、協議の中で報告を受ける数字と、それに関連する施策の目標がよくわからないことが問題であると思う。数値的な目標が示されないと、どれだけ進捗したのか分かりづらい。

将来的に公共交通を維持してくためには、抽象的な話や漠然とした数字ではなく、やはり目標に対する数字が大事だと思う。報告に関してはご配慮いただきたい。

○菅野委員

くろワンは、平成19年からスタートし、今年が10周年である。

くろワンでは、子どもをターゲットとし、地鉄の利用促進のために公共交通の応援歌を作った。子どもが応援歌を歌って踊って電車に乗ることで、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんにも一緒に乗ってもらいたいと考えている。

今回出席している老人会の皆さんにも今までご協力いただいているが、もっと盛り上げていきたい。

今年の恐らく11月に20回目のくろワンを実施する。協議会の皆さんにぜひ乗っていただき、子どもたちと一緒に応援歌を歌って踊ってもらいたいと考えている。

昨年、電鉄石田駅を自治会振興会と一緒にクリーンアップを実施した。宇奈月温泉駅だけでなく、石田駅もきれいにしなくてはならないと感じている。各地区の自治振興会を中心に、くろワンと一緒に盛り上げていきたい。

くろワンでは、利用促進のためにキャラクターのくろワンちゃんが一緒に電車に乗って黒部市について案内をする、等の取組みも行っている。

黒部市内には4つの鉄道と4つのバス路線があり、応援歌の歌詞には鉄道、バス路線名がすべて入っている。黒部市民全員をあげて、応援歌を覚えて歌って、公共交通に乗って盛り上げていかなければならないと考えている。

会議で座っているよりも、公共交通に乗ったほうがよい。皆さんぜひ利用していただき盛り上げていただきたい。

○原田委員

黒部市は、全国と相対的に見て、かなり真面目に取り組んでいるように感じる。市の担当者がきちんと理解しているし、他自治体と比較してもかなりがんばっているという印象を受ける。

本日の会議へ向かう際、工藤課長と新幹線市街地線を利用してきましたが、2人しか乗っていなかった。新幹線の到着時間と会議の時間のタイミングがよかつたので利用したが、みんなで何かするような場所と目的が街なかにもっとあれば、皆さんがあつと集まってこられるのかなと思う。

協議会の中でタクシーやU b e rの話が挙がったが、事業に関しては公共交通同士で利用者を取り合うのを目指している訳ではない、ということをご理解いただきたい。冒頭の市長の話にもあった通り、公共交通を使って生活することが、黒部市にある程度根付いていくにはどうしたらいいか、について考えていきたい。

黒部市の公共交通は、地鉄、バス、タクシー、コミュニティバスがある。その中に、民間の送迎バス支援の実施や、小さい交通で示したようなI C Tの活用を行うことで、公共交通全体の輪を広げたいという思いである。

我々は黒部に定住していないので、地元について分からぬ部分が多くある。しかし、データを取り、解析して皆さんに示すことで、良い成果が出るのではないかと思っている。

○川端座長

その他意見が無いようである。

以上をもって、議長としての役割を終了させていただく。ありがとうございました。

閉会（堀内市長）

●市長より挨拶を行った。